知財実務における Gemini 4 Argon の活用とセキュリティ極意

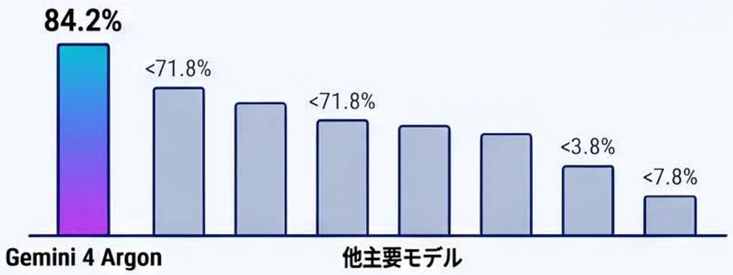
知財業務における3つの強みと推奨用途

100万トークンの巨大窓と長大出力



数十〜百件の特許公報を一括読み込み、長大な対比表を一続きで出力可能。

長文推論 (GraphWalks) で84.2%の圧倒的首位



他主要モデルを大きく突き放し、大量公報の横断対比に威力を発揮。

先行技術調査・無効資料調査と明細書読解に最高評価 (◎)



クレーム要素分解や公報PDF・図面理解の工数を大幅に削減可能。



実務適用のリスク管理とセキュリティ原則

低ハルシネーション率 (15%) だが正答率は50%



嘘は少ないが「答えない」慎重型モデルのため、調査の見落とし検証が必須。

未公開発明は「有料API・クラウド環境」に限定



無料版や個人向けアプリはデータ学習・人手レビューの対象となるため厳禁。

出力の最終責任は必ず「弁理士 (人)」が負う



各国特許庁・弁理士会のガイドラインに準拠し、原典照合と最終判断を行う。

Gemini Notebook